



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



小野芋の株(親イモ・子イモ・孫イモ一体)



昨年の収穫の様子



在来種・小野芋を大切に育てたい

**時代に合った品種改良も良いが
古来の財産を後世に残したい！**

長年作り継がれていた野菜(在来種)を、古来の栽培方法で大事に作り育てている元気な男性を紹介します。

なかむらとみお
中村富蔵さん(76歳) 出石町口小野

出石地域の小野地区で、農業を営む一環で、貴重な在来種「小野芋」を守り育てているのは、中村富蔵さん。

中村さんが育てる「小野芋」とは、小野地区で古くから作り継がれているサトイモの在来種のことをいいます。

古来の品種の危機

すでに、江戸時代には小野地区で栽培されていた「小野芋」は、品質が良く、おいしいとの評判で、京都の料亭などに出荷されていたといわれています。それが、戦争の影響で作り手が減少し、戦後は自家消費用のイモとして栽培されたそうです。

その後も、他の品種を栽培する家が出てきたりと、生粋の小野芋の存在が危うくなりました。今では、同地区で、在来種の小野芋を栽培する家は数えるほどしかありません。

地域の在来種「小野芋」を守る！

中村さんは「小野芋は希少な品種、と気付かされたのは5年ほど前」と話します。

それまでは、「代々引き継がれた品種を、農薬や化学肥料のなかった昔ながらの手法で

栽培していた」との思いしかなかったと言います。

その中村さんが「小野芋を将来に残そう」と強く思うようになったのは、在来種に関する研修会に参加したとき。そこで、県内の在来種の保存活動をしている方に「この品種を絶やさないうよう、栽培面積を広げては」と助言されました。当時は、「とても一人では」と、消極的な中村さんでしたが、偶然、その研修会で知り合った方の協力で、応援隊なる協力体制ができ、栽培面積を増やせたと言います(今は20アールほど)。

苦労はついて回るもの！

小野芋栽培での苦労は、「イモが病気になるようにすること。また、株(親・子・孫のひとかたまり)を保存して、種用の孫イモを取るのも気を使う」とのこと。

孫イモは、イモが病気になるにくいという理由で、春の種植えに使われます。

小野芋の収穫は時期的に遅く、11月中旬から下旬です。

「この時期に収穫して市場に出したところで、他の品種と同様に扱われる」と言う中

村さんですが、淡々と小野芋の栽培を続けていたためか、気にも留めません。

小野芋の調理方法を聞くと、「試行錯誤しているが、味を知るにはシンプルに。薄味で炊くとよく分かる」との答え。農作物も外国産のものが多い昨今、「幸い、在来種・小野芋には応援隊がある。この品種を絶やすことなく後世に残せれば」と願う中村さん。同時に、他の在来種も大切に保存されたい、との思いも。

小野地区を健康長寿の郷に！

農業を続ける一方、小野地区で「健康長寿の郷づくり」を考えている中村さん。

老若男女関係なく、地域全員で「さびない体」を作ろうというものです。

「年を重ねても元気で長生き、これが一番」と苦笑い。「体を動かし、頭を使い、しゃべって笑う、そうすることで体の免疫力を高め、医者にかかることなく、健康であってほしい」との願いが込められています。

「日々「生懸命！」」年を感じさせない中村さんの元気の秘訣です。

ま ち の 話 題



▲青空の下、楽しく交流

「但東っ子通学合宿」
いつもは地域の宝物・地域で育つ地域で見守る

10月20日から24日まで、但東町出合の公民館で、4年生以上の小学生25人が、集団生活をしながら学校に通う「但東っ子通学合宿」が行われました。

「食事は、全員が食べ終わるまで席を立たない」、「けんかは両成敗で、お互いを理解し仲直りするまで対座する」など、「礼に始まり、礼に終わる」生活で、規律や助け合いの精神を学びました。また、入浴は周辺の民家に「もらい湯」をすることで、地域の方たちと交流し、絆を深めました。

テレビやゲームがなくても、みんなで工夫し楽しんだ、笑顔あふれる5日間でした。

「三世代交流グラウンドゴルフ大会」 健康増進と三世代交流を目的に

11月2日、中竹野小学校グラウンドで、三世代交流グラウンドゴルフ大会(中竹野地区公民館主催)が開催されました。小学生から高齢者まで約50人が参加し、交流を深めていました。

参加者の中には、ホールインワンを達成する方もいて、「やったー」という声と周りからの「おおー」という歓声が、グラウンド全体に響いていました。

参加した山村柚人くん(竹野中3年)は「打つのが難しく、ホールインワンがなかなかとれないけど、楽しい」と笑顔で話していました。



▲スタッフの助けを借りながら後片付けに励みます

笑顔の輪

「つながりあそび・うた」を広めたい
はっぴーふれんず☆たんとう(但東)

但東地域で活動している、つながり・レクサークル「はっぴーふれんず☆たんとう」は平成14年に設立されたこのサークルは、生涯学習の一環として、主に但東地域の乳児から高齢者までを対象に、「つながりあそび・うた」を中心に楽しんでいきます。メンバーは、特に固定されていません。サークル活動をするときに、声掛けで参加してもらえれば、との考えです。

サークル活動のねらいは3点、①自分自身が生き生きと家庭で、職場で活躍できるように一緒に歌い踊り、心や身体を豊かに育もう②人と人とのつながりの輪を広げ、心の豊かさや命の大切さを伝えよう③つながりあそび・うたの温もりや喜び・楽しさを通して、子育てや人育て、仲間づくりを支援しよう。



▲親子で歌の練習。ギターを奏するのは小学生!

東京都の「つながりあそび・うた研究所」の考えを基にしたもので、同所長の二本松はじめさんを迎えて開催するイベントでは、参加者が楽しく過ごせるようサポートします。サークル内の「ここにこつながりあそびの会」リーダーの野世英子さんは「この思いが皆さんに伝われば」と話します。平成16年9月には、二本松さんの書き下ろし曲「あなたと生きるまち」ふるさと但東」が発表されました。歌詞には但東の名所や子育て中のお母さんたちの声などが織り込まれています。このサークルでは、「但東の歌」として知ってもらおうべく、さまざまなイベントで披露しています。どこからか、「あなたと生きるまち」ふるさと但東」が聞こえてきませんか。